

令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和7年12月19日（金）15時30分～17時00分

大会議室

学校運営協議会委員（五十音順）

皆藤 慎一（横浜平沼高等学校 同窓会真澄会 会長）

籠田 誠（横浜西口エリアマネジメント事務局 事務局長）

小島 由美（横浜平沼高等学校 校長）

ジギャン クマル タバ（かながわ国際交流財団学術・文化交流グループ 職員）

遠山 満（横浜市立岡野中学校 校長）

平野 周二（横浜市西区第五地区自治会連合会 会長）

藤井 千春（早稲田大学 教育・総合科学学院 教授）

深山 由希子（横浜平沼高等学校 PTA会長）

脇本 健弘（横浜国立大学 教職員大学院 准教授） 欠席

本校職員

川上 司（副校長）

川崎 幸（教頭）・司会

島崎 理恵子（事務長）

小出 実（教務・情報グループ GL（グループリーダー））

日野 裕紀（総務グループ GL）

藤山 直樹（研究開発グループ GL）

一柳 浩一（進路グループ GL）

志方 大悟（生徒会グループ GL）

櫻川 純平（生活グループ GL 代理）

○ 開会(15:30)

○ 学校運営協議会・評価部会（15:30～16:20）

1 校長挨拶

学校は本日が今年最後の授業日となった。

先月の125周年記念式典にご参加いただいた委員の皆様にはお礼申し上げたい。あの規模の実施は経験がなく、PTA、同窓会との協力で行えた。本日の全校集会では、記念事業の一つ、平翠戦のクロージングを行った。机上に神奈川新聞、タウンニュースの特集記事を配付させてもらった。それぞれ編集のコンセプトが異なる。式典当日発行の神奈川新聞は生徒の生き生きとした姿を載せ、中学生に平沼に行きたいと思える記事にした。タウンニュースには式典の様子を掲載してもらい、配付エリアも広いため、見たという声を多くいただいた。

10月には2年生の修学旅行を実施した。グローバル教育の一環として、関西万博への参加をメインに行った。

本日は皆様から様々なご意見をいただき、今後の学校運営に生かしていきたいと考えている。

2 報告、連絡事項

令和 7 年度第 1 回「生徒による授業評価」集計結果について資料のとおり報告する。学校独自質問として、今年度の授業改善のテーマにつながる設問を設けた。(藤山 GL)。

3 【協議】令和 7 年度学校目標中間評価について

(1) グループリーダー等からの説明

「教育課程の検証について」

新教育課程の初めての卒業生がこの 3 月に出た。アンケートをとったところ、様々な意見が出た。単位数や学習量を増やしたいとの意見もあった。盛んな部活動の活動時間確保との兼ね合いもあり、意見の反映は難しいところだ。次年度の科目選択の動向はだいたい例年と同じで、文系 200 人、理系 110 人といったところ。文系には音楽、美術など多様な進路を含む。アンケートを踏まえ、できるところからマイナーチェンジを進めているところだ。(小出 GL)

「ＩＣＴの管理体制について」

1 月になると電子黒板が納入される。次年度からの運用に向けて準備しているところだ。またデジタル採点について、現在試行段階だが、うまく使えるよう体制を整備したい。(小出 GL)

「組織的、継続的な授業改善について」

今年度の研究開発グループは授業改善によって生徒の資質を伸ばすこと目標にした。研修会や定期的な教科会などを実現した。ただし、実現したのはあくまでこちらの声掛けがあったからで、今後は特に設定がなくても、活発に進むようになればいい。今年度はその土台づくりに貢献できたと考える。(藤山 GL)

「生徒会行事の運営について」

生徒の主体的な関与が生徒会グループの目標。グランドデザインに鑑み、生徒が自分達のやりたいことをどう具現化するか昨年度から追及している。ただ、過度に生徒の力に期待すると、生徒は逆に先生は何もやってくれないという気持ちを持つ。丸投げでは生徒は育めない。グループメンバーで検討を深め、骨格づくりを行っている。来年度に向けてすでに動いている。職員全体の共有にも気を配っている。(志方 GL)

「ＳＣ、ＳＳＷとの連携について」

かながわ子どもサポートドックでは全生徒に対して学校生活に関するアンケート調査を実施し、ＳＣ（スクールカウンセラー）、ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）ともスクリーニング会議で情報共有や相談の上、生徒との面接を行っている。気になったのはＳＣ、ＳＳＷのチェックで、チェックの数が増えるほど、本当に支援が必要な生徒の見極めや対応が難しくなる。今後はＳＣ、ＳＳＷにも理解を求め、サポートドックの有意義な活用を深めたい。(櫻川 GL 代理)

「3 学年の受験状況について」

今年度から大学入試共通テストの出願が出願サイトを通じて行う web 出願となった。今のところうまくいっている。今年度の本校の出願数は 303 名。一方、指定校推薦は計 51 名で例年よりも多い。模試の結果からみると、もっと伸びるのにと思う生徒もいるが、安全志向が働くのだろうか。(一柳 GL)

「希望進路の見い出しと実現に向けた手立てについて」

Hi-ゼミを充実させ、上位校を目指すための支援を広げている。(一柳 GL)

「P T A との連携について」

主催行事を通じた交流や、活動の在り方についての議論を深め、今年度はしっかりと連携できていると思う。今後も、保護者の方々からの意見をいただき、積極的な活動となるよう目指していきたい。(日野 GL)

「地域貢献活動について」

地域貢献活動は生徒会グループ、1学年の大きな取組の一つだ。とりわけゴミの問題が大きいことに気づき、今年度は清掃活動に多くの生徒を参加させた。全県下から生徒が集まっているため、地域性、地域を思う心の育成は難しいところだが、横浜西口クリーンアップの参加で郷土意識の育成を図った。一方で、活動後に振り返りのための教室確保ができないなど、キャバの問題もあった。次年度に向けて、受け入れ態勢の工夫などで清掃活動の参加生徒を増やし、意義あるものにしたい。(志方 GL)

「防災への取組について」

7月30日の津波警報発令時、本校は夏季休業中であったが校内で部活動中の生徒も多く、直ちに3階以上に避難させるなどの対応をとった。また、今月12日には職員対象の防災研修を市消防局の職員を迎えて行い、地震や津波について学んだ。次年度以降も、防災に向けてしっかりと取り組みたい。(櫻川 GL 代理)

「業務改善について」

総務グループとして、選択教室の整備など校内施設の改善に努めている。また、ICTを用いた業務改善を職員の連携、協力で進め、働き方改革への寄与を図っている。(日野 GL)

(2) 質疑等

「教育課程・学習指導について」

引き続きカリキュラム改善に取り組んでほしい。大学生に高校の勉強を聞くと、大きな格差を感じる。具体的に生き生きと探究活動を語ることのできる学生は、その後も積極的に活動できて、大学の資産も有効に活用できる。そういう学生が1/3、逆に1/3は高校時代に探究活動を一応やったが、ICT機器を使ったとか後援会を聞いた程度にとどまっている。こういうことがやりたいという希望が見えていない。高校でどんな学習をしてきたのか、今の言葉で言えば学力差を感じる。(藤井委員)

同窓会長として卒業生と会うことが多いが、名を上げている者は小学校のころから自分のやりたいことを持っている。きっかけがあればガラリと変わる生徒もいるのではないか。先生方にはインパクトのある授業をしていただき、生徒を伸ばす努力をしていただきたい。(皆藤委員)

中学校でも、先生方に授業見学に行くように呼びかけている。研究授業となると指導案づくりなど負担がかかる。負担のない授業力向上を図りたいが難しいところだ。(遠山委員)

グローバル人材の育成についてだが、校外の活動に生徒を参加させるのもいいのではないか。外国人へのアレルギーが最近問題になっているが、若いうちから触れておかないといけない。全部校内で行うのが難しかったら、校外に協力を求めてほしい。学校によっては単位認定をしているところもある。私のかながわ国際交流財団でも多くの事業を行っている。今月13日、14日の湘南国際村でのイベントには平沼高校からも1名参加があった。多くの学校の生徒と交わる試みとしても活用してほしい。(ジギヤン委員)

同窓会では一人10万円の奨学金を用意しているが、海外研修の補助としても活用を開いてい

きたい。若い頃の体験は視野を広げるきっかけになろう。(皆藤委員)

「生徒指導・支援について」

生徒の自主性を育成するのは大事だが、なかなか難しいだろう。中学校でも、生徒会に入ったものの自分の思いとは違うと訴える生徒がいた。(遠山委員)

「地域との協働について」

高校にとってのPTAとは何だろうとずっと思っている。学校運営協議会のこの場、PTAの運営委員会などで、クレームではなく意見を出し合う必要があり、保護者としてはもっと学校を理解して意見を出していくことが必要だろう。(深山委員)

今年度は私の中学校から平沼高校にお世話になる生徒が少し増えた。今日も卒業生から私に挨拶の声がかかり、うれしい限りだ。地域の温度差など苦労も多いと思が、この地でぜひ地域貢献活動に力を入れてほしい。(遠山委員)

今年度の地域貢献活動で、西口エリアマネジメントも清掃活動に参加した。スタッフの意見を集めると、生徒は活動の意義がわからないままに活動しているのではないかという課題が浮かんでくる。ぜひ、生徒に地域貢献の意義を伝えていただきたい。(籠田委員)

「学校管理・学校運営について」

生徒の防災訓練、職員の防災研修などいろいろとやっていただいている。重要なことだと思う。私からは、生徒、先生がいない時間帯に地域で発災したときのことも考えていただきたい。先日夜8時過ぎに学校前を通ったが真っ暗だった。いざ避難となると改善できないか。(平野委員)

－防犯上、不審者対策として明るくしておくのはなかなか難しい。(櫻川GL代理)

○ その他の部会（扱ったテーマ、委員等から出た質問、意見等の概要）(16:25～16:55)

1 地域連携部会

「防災について」

- ・西口周辺の災害時の状況が心配だ。はしご車訓練があるが高層ビルは12階以上には届かない。
- ・同地域には地盤沈下の可能性もある。西口シェーキーズ前の段差は自然にできた。
- ・ジョイナス、相鉄周辺は津波も懸念される。
- ・7月の津波警報時は外部からの来校者の避難があった。
- ・教室の避難用具の訓練も必要ではないか。
- ・学校は横浜市西区の防災担当者と補充的避難所開設時の避難場所見直しを行っている。
- ・広域応援活動拠点としての協力も学校の課題となっている。

「地域貢献について」

- ・教職員の意識が低い。熱量を感じるためにはどうすればよいか。
- ・実際の地域の活動を目にし、実際に体験してみるのがよい。
- ・Green Expoに向けて何か活かせることはないか。学習活動につなげるのはどうか。

2 学力向上・グローバル教育部会

「留学する生徒の減少について」

- ・日本への留学生は逆に増えている。中国、ネパールなどアジア系が多い。

- ・減少には円安の影響が多い。
- ・奨学金活用をもっと勧めるべきだ。

「授業改善について」

- ・今年度は、アウトプット活動をどれくらい行っているかを見てもうために、あえて他教科の授業を見てもらった。
- ・生徒の視点に立ってみることが大事である。
- ・授業によって生徒は多様な表情をみせるので、そういう面でも他教科の授業を見るのはよい。
- ・どのような力を子どもに育成してほしいかななど、保護者の意見を集約し、授業改善に活かす。
- ・電子黒板の利用状況だが、高さが足りず、前の人頭で見えないなど、あまり積極的に使われていないケースもある。
- ・電子黒板の利点はモニターやスクリーンと違って直接書き込めることだ。

3 部会報告

部会終了後、各部会の討議について、地域連携部会は日野 GL から、学力向上・グローバル教育部会は小出 GL から全体報告があった。

○ 閉会（17:00）